

5. 山国川の川づくりの進め方

山国川は、中上流域のほぼ全域が国定公園であり、古来より人々は山国川のすばらしい自然の恩恵を享受し、豊かな歴史が育まれています。名勝耶馬溪の指定を受けた数々の景勝地は流域の重要な観光資源となり、年間約 170 万人の観光客が耶馬溪を訪れています。

また、山国川は大分県と福岡県の県境に位置していますが、かつて豊前国としてひとつのまとまりであり、共通の歴史を持ち、現在でも文化面、生活面でも繋がりを持っています。

しかし、川を中心とした地域づくり、流域一体となった取り組みや川を挟んだ情報の行き交いを行うには、県境であるが故の行政界は障害にもなっています。

このような特性をもつ山国川流域において、治水安全度の向上を推進していくとともに、その風致の保持、景観との調和及び水辺環境の保全を基調とした川づくりを進めていきます。

その川づくりを進めるにあたっては、川づくりは河川管理者だけの課題でなく、流域で生活する人々の課題でもあるということ、流域の方々と共有することが重要となります。

そのためには、地域ぐるみでより良い河川環境を形成していこうという気運、治水に対する正しい理解、さらには洪水等の被害から自ら守っていこうという意識を高めていくことなど、県境を超え、両県の流域住民と連携した河川環境の保全、防災・減災対策を進めることが必要です。

山国川河川事務所では、地域の方々やNPO、地元市町等の関係機関と協力して水辺体験や環境学習、水生生物調査など将来の地域を担う子供たちへの環境学習を積極的に支援し、住民が山国川的环境や治水利水についての関心を高めるための活動を行います。

また「山国川の日（10月15日）」の河川一斉清掃、「森と湖に親しむ旬間」の際にダムを開放して啓発活動を行うなど、地域住民が山国川に関わる機会を設け、日常の維持管理においては、従来の河川管理者だけが行ってきた河川管理から、「山国川は地域みんなのもの」とあるとの認識に立った住民との協働による河川管理への転換を推進していきます。

また、耶馬溪ダムでは、水源地域の自治体・住民等とともに策定した「耶馬溪ダム水源地域ビジョン」に基づき、貯水池周辺での植樹活動、水源地と受益地との交流会などの事業に取り組んでいます。今後はこれらの活動を継続し、河川に対する正しい理解の啓発に努めるほか、洪水等の被害



写真 5.1 河川一斉清掃



写真 5.2 植樹祭

から自らを守る意識を高揚するため水防情報の発信など努めていきます。

広報手段としては、前述のほか、インターネットや携帯電話、ポスター、パンフレット等を活用するほか、新聞やラジオ、テレビ（CATVを含む）等の地元メディアと協力し、情報発信や双方向コミュニケーションを推進していきます。

なお、山国川の川づくりについては、PDCAサイクルの手法を用いて、実施してきた取り組みを定期的に評価、改善しながら、地域と一体となった防災・減災を目指し、水の恵みと生命育む流れや山国川固有の水辺環境、歴史・文化・景観、利用環境を守り伝えるよう努めます。

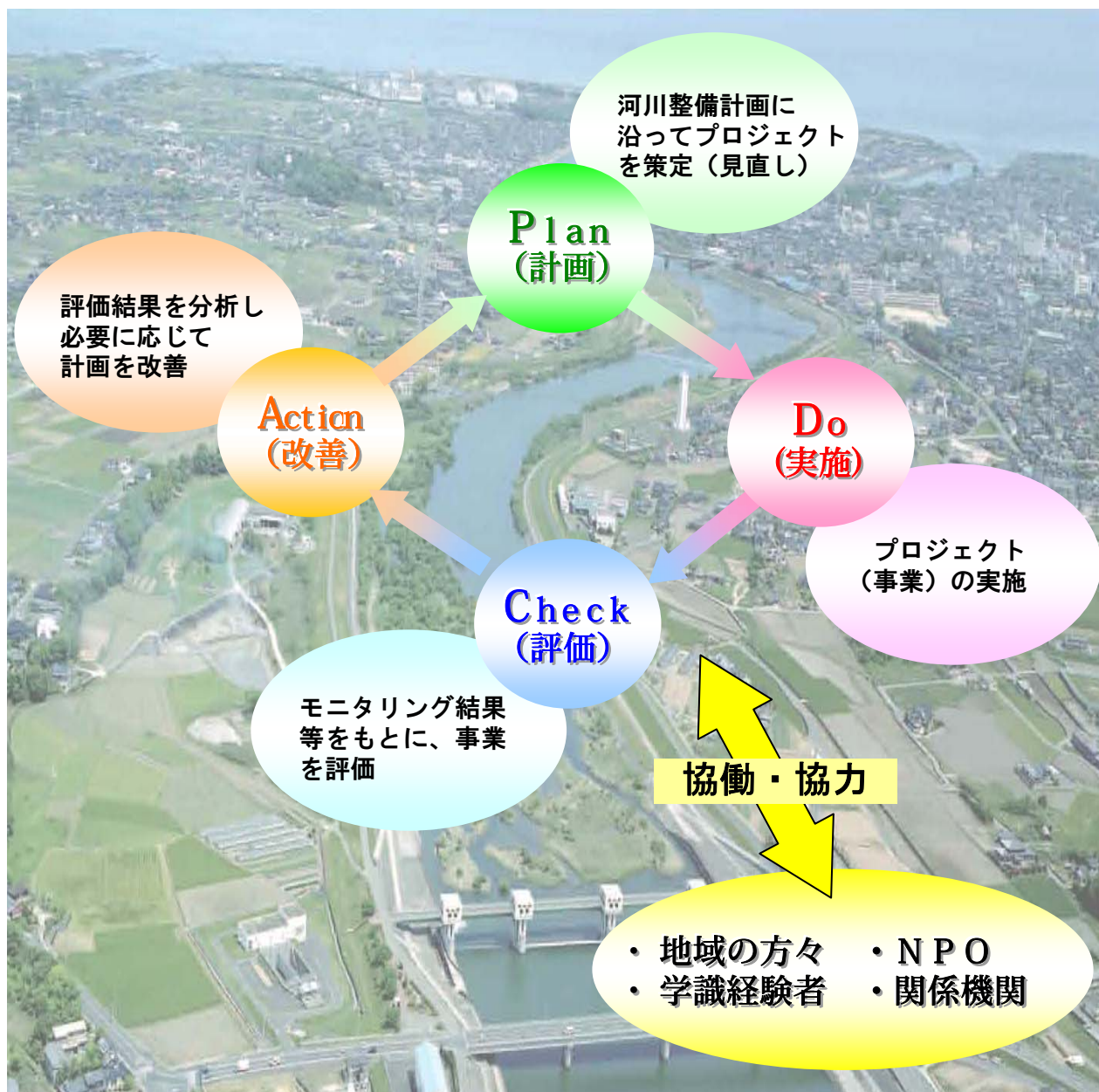


図 5.1 山国川の川づくりの進め方のイメージ